



# 越冬キュウリ

グリーンプラザ第一集出荷センター  
営農指導員 川島 俊一

● **農薬散布の目安**  
うどんこ病は生育初期から発生することが多いので、発病前から予防剤を散布することが重要です。

## うどんこ病の防除について



写真④ キュウリのうどんこ病

近年、うどんこ病に抵抗性を持つ品種が出てきていますが、品種に頼ることなく、予防を心掛け、発生初期にしっかりと防除することが重要です。

## 昨年度の振り返り

昨年度は、生育初期から収穫終了まで、常にうどんこ病(写真④)の発生が見られ、温湿度の管理に非常に苦労する年となりました。一方で管内の越冬作では環境制御技術の導入が進み、全体の収量は年々増加する傾向となっています。安定した収量を確保するためには、初期の管理を徹底し、病害虫を出さないこと、樹勢を強く維持していくことが重要です。

表① キュウリのうどんこ病に登録のある予防剤

薬剤名	有効成分	希釈倍数	使用時期	使用回数
ダコニール1000	TPN	1000倍	収穫前日まで	8回以内
アフェットフロアブル	ペンチオピラド	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ベルコートフロアブル	イミノクタジンアルベシル酸塩	2000倍	収穫前日まで	7回以内
ネクスターフロアブル	インピラザム	1000倍	収穫前日まで	3回以内

表② キュウリのうどんこ病に登録のある治療剤

薬剤名	有効成分	希釈倍数	使用時期	使用回数
ガッテン乳剤	フルチアニル	5000倍	収穫前日まで	2回以内
プロパティフロアブル	ピリオフェノン	3000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	3000～5000倍	収穫前日まで	5回以内
ポリオキシシンAL水和剤	ポリオキシシン	1000倍	収穫前日まで	2回以内

7月の分析経過について  
 残留農薬分析点数…7月は実施なし  
 土壌診断点数 …… 合計65点

# 農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



# ソラマメ

やさいの里営農センター  
営農指導員 中村 克己



## 昨年度の振り返り

昨年度は、本圃定植後から低温が続きましたが、生育はおおむね順調に推移しました。1月下旬の降雪により、一部の圃場では枯死した株も見受けられましたが、被害は軽度でした。2月以降は寒波と乾燥が続く中、圃場によって生育のばらつきが見られました。3月末頃からは陽気の緩みから下段の花が咲き始め、出荷が早まる傾向にありましたが、4月に入り、土壌伝染性のウイルス病も見受けられ、さらにはトンネル除去後の強風による中段以降の花落ちが発生したことにより、収量が大きく低下する圃場が見られました。

## ソラマメ病害虫防除

### えそモザイク病

このウイルス病は土壌伝染性の新規のウイルスによるもので、株に萎縮症状、葉にえその輪紋、莢にえそ症状が出るのが特徴です(写真①～③)。また、早期に発病すると生育が停止し、収穫に至らないこともあります。現在できる対策としては、①連作を避ける②水はけの悪い圃場を避ける③ウイルス病と思われる症状が確認された圃場では、早期に発病すると生育が停止し、収穫に至らないこともあります。

現在できる対策としては、①連作を避ける②水はけの悪い圃場を避ける③ウイルス病と思われる症状が確認された圃場では、早期に発病すると生育が停止し、収穫に至らないこともあります。

認められた圃場では発病株を抜き取る④ウイルス病が発生した圃場の土壌を他の圃場に持ち込まない⑤堆肥などを投入し土壌の改善を行う、の5つです。薬剤試験では、定植の45日前までにバスアミド微粒剤を10坪当たり30キロ散布した結果、ウイルス病の発生が軽減されましたので、使用をお勧めします。

### 赤色斑点病

初めは、葉の表面や裏に小さな斑点が現れます。症状が進行すると大型の斑点となり、葉や莢にも生じるため、収量や外観を著しく損ねます。3月以降の降雨後に多く発生するため、降雨後の予防散布が効果的です。また、肥料切れや排水不良の圃場でも発生が多くなるので注意しましょう。

### さび病

4月以降、白い斑点の中に褐色のさび病の病斑が発生します。発生しやすい下葉を観察して、早期防除に努めましょう。

### アブラムシ類

アブラムシは3～4月になると多発し、茎や葉、莢に群がって葉の汁を吸い、株の生長が止まります。定植時にはアトマイヤー1粒剤を処理し、発生時にはアデオオン乳剤やモスピラン顆粒剤を散布しましょう。

を散布することが重要です。最低でも10月いっぱいには薬剤散布のたび(1週間～10日に1回)に予防剤を入れるようにしましょう(表①参照)。また、厳寒期は、2週間～1カ月に1回の割合で予防剤を散布しましょう(同成分の農薬が多く有りますので、回数には十分注意してください)。

少しでもうどんこ病の発生が見えるようなら、治療剤に切り替え、しっかりと防除しましょう(表②参照)。特に生育初期にしっかりと防除できていれば、その後は非常に管理しやすくなります。



写真② 葉のえそ輪紋



写真① 株の萎縮症状(左側)



写真③ 莢のえそ症状

● **土壌診断の実施**  
近年、ソラマメの生育において土壌酸度(pH)、養分バランスの崩れなどを原因とした生理障害や生育不良などが発生しやすくなっています。いま一度、土壌診断を実施し、最適な施肥管理を目指しましょう。